

— 南総地区の人口 —
 人口 21,289人
 男 10,729人
 女 10,560人
 世帯数 10,153世帯
 令和3年11月1日現在

ふれあい

地域で守ろう『福祉のまち、南総』

編集 南総地区社協
 広報委員会
 発行責任者 地区社協会長
 児井敏雄
 事務局 南部エリア推進
 センター内
 電話 92-1481

コロナ禍での事業実施状況について

今年度の活動は当初より新型コロナウイルス感染症拡大の影響があり、いくつかの事業について延期や中止をせざるを得ない状況が続いております。

南総地区社会福祉協議会では、緊急事態宣言が明けた十月以降、各事業の再開に向けて準備を行っております。

一、ふれあいの場、仲間づくりの場の推進事業

子育てサロン、いきいきサロン（小域福祉ネットワーク主催の茶話会も含め）は開催日数や参加人数は減少しましたが、徐々に再開しております。

二、福祉（防災）意識の醸成と人材発掘（育成）事業

「災害ボランティア支援事業」は地域全体の災害（防災）意識の醸成と災害

時に支え合い、助け合える人材を育成するため、南総地区災害対策委員会（旧南総地区災害対策本部）と共催で研修会を開催しました。

また、認知症に対する理解と高齢者が住みよいまちづくりを目指し、「認知症サポーター養成講座」も定員を減らして開催してまいりました。

三、高齢者支え合い事業

第2層協議体で推進しております「南総地区向こう三軒両隣」の取組みを支援してまいります。ご近所同士でのお互い様の見守りから、困りごとや地域の課題、問題などがございましたら、毎週土曜日に南部保健福祉センター（なのはな館）にて地区社協が実施している相談事業へお越しください。来年度は二〇一八年に策定した「南総地区行動計画」



いちはらアートミックス2020+で賑わう牛久駅前

の見直し期間となります。事業の一部は中止となりましたが、改めて今後の事業のあり方について検討してまいります。
 （会長 児井 敏雄）

防災リーダー研修会

災害に強い地域を目指して

令和三年十一月二十八日、南総公民館体育館において「南総災害対策委員会（令和二年九月発足・委員長山本義雄氏）」と地区社協が共同で研修会を開催しました。

南総災害対策委員会は、南総地区での大規模災害発生時の連携強化の重要性から、南総地区町会長会を中心に各種団体で構成するもので、災害時の対応に加え平常時にも災害対策意識の向上を目指している。南総地区社会福祉協議会では実施している「災害ボランティア支援事業」の中でも毎年、地域の防災力を高め、災害時に助けあいのあるまちを目指し「防災講座」を実施しているが、これと共通の認識を有することから、今年度は研修会を共同開催することでより一層の成果を期待して実現したものである。

当日は役員を含め四十六名が参加し、講師の市危機管理課より「自分たちの住む町の災害リスク」のDVD上映と講演、「地域で連携した避難所の開設・運営について」の実技訓練を実施した。なお、本研修を受講された



実際に横になって占有スペースを実感

ご協力ありがとうございました

南総地区社会福祉協議会では「賛助会員・会費制度」を実施しております。この会費は南総地区社会協独自の財源として、地域のニーズ、実情に則した活動に活用させていただいております。また会費の一部は「南総地区地域福祉基金」にも組み入れ今後必要となり得る新たな福祉サービスや災害（防災）対策にも活用させていただきます。

あわせて、今年度も新型コロナウイルスの影響で福祉バザーが中止となり、各町会を通じて「歳末助けあい募金」へのご協力をお願いいたしました。これは、新しい年を迎える時期に支援を必要とする方たちが安心して暮らすことができる地域社会づくりのための取り組みを推進することを目的としており、南総地区でも下記のようなご寄付を頂戴いたしました。

誠にありがとうございます。なお現在も賛助会費及び募金活動は継続中のため経過報告でございます。

【令和3年度南総地区歳末助けあい募金実績報告】
 （11月末現在）

535,700円

【令和3年度南総地区賛助会費実績報告】（11月末現在）

区分	協力者数	金額
個人	625件	600,700円
団体	23件	138,000円
合計		738,700円

表彰おめでとうございます

市原市表彰

社会功労表彰

長谷川 光子さん
 田口 由美さん
 市子育て家庭支援員として多年にわたり児童福祉事業に寄与されました

伊藤 陽子さん

市スポーツ推進委員として多年にわたり地域のスポーツ振興に寄与されました

善行表彰

長興 勝康さん
 多年にわたり地域の環境美化に寄与されました



トピックス

寺谷地区

「命と命をつなぐバトン」 寺谷小学校区小域福祉ネットワーク

平成二十八年に寺谷小学校区の全世帯に配布したあんしん医療キットを、今回、内容もリニューアルして再配布を行いました。



家族全員の情報を入力します

最初に配布してから五年の歳月が流れ、個々の家庭環境の変化、大型の台風や東日本大震災、新型コロナウイルスの感染拡大のように、これまでは想像していなかった災難が降り掛かっております。そのため今回、あんしん医療カードも説明書を見なくても書けるように「書いていただく」と、冷蔵庫の大きさに関係なくコンパクトに収納できるように「保管していただくこと」を目的に再製作し、配布を行いました。

また寺谷地区では医療機関がないため、緊急時の対応でも、一刻を争う状況に陥る危険性を考え、救急隊の迅速な措置を行うアイテムとして全世帯配布を行いました。

あんしん医療カードを保管する容器の大きさからバトンを連想しますが、命と命をつなぐバトンとして、大きな役割を担うことに期待しています。

(会長 熊坂 竜介)

ずしも発災時の安否確認にはならなかった。このことから、着実に確認を行なうにはどうするか考えた時、高齢者への安否確認は、「近所」の人々の働きをもって行うことが大切であると思われた。

あんしん医療キットとは

緊急時・災害時等、切迫した状況の中で救急隊・医療従事者に、確実に伝えなくてはならない情報を文書に残しておく手段として製作したものです。

内田地区

向こう三軒両隣(近所)の仕組み

内田地区小域福祉ネットワーク

東日本大震災の記憶も残る平成二十四年頃からネットワークの全体会議の中で、今進めている希望した世帯のみの安否確認対策では、果たして巨大地震が発生したら、希望しなかった一人暮らし高齢者世帯への安否確認はどうなるかが話題になった。

当時の訪問員の話では、発災時には気が回らず「大分遅くなった」とか、「夕暮れになっちゃった」などと、必



決められた世帯が避難します

あなたの町の民生委員 南総地区民生委員児童委員協議会

あつた場合は、相談・支援活動をしたり、専門機関につないだりしながら、問題の解決に向けて対応しています。さらに、地区社会福祉協議会が主催しているふれあい・いきいきサロンや、地区社会福祉協議会賛助会員募集活動にも、民生委員が事業を支えるべく力を尽くしています。

この小地域の日常の暮らしに、この『協和』を留意でき、安心の確保と安全の方策の素地ができたこと。そこで、『協和』の中味は次のとおりである。

- 一、発災時の一人暮らし高齢者世帯への安否確認は、予めめ人を決めて行うこと。
- 二、この「近所」の世帯に、一時避難場所を予め設置してあること。
- 三、そこに連絡員を予め定めたこと。
- 四、発災の際の避難と確認に行く人々の行動をフローチャート(行動図)にして明らかにしていること。

以上の項目が中味です。

(会長 小出 完爾)

考えますので、大変残念に思います。この回収活動を契機に、少しでもゴミが減少することを願っています。

ゴミの種類	合計
スチール・アルミ缶 (コーヒー・酒)	39缶
ペットボトル (ジュース・お茶)	72本
ビン (酒)	10本
タバコの吸い殻 (フィルター)	55本
菓子袋・弁当カラ等	1袋 (40 l)

(編集委員)

なのはな館には送迎のマイクロバスがあります。これは、平三地区または加茂地区にお住まいの方で、なのはな館をご利用の高齢者団体であればどなたでも予約することができます。

なのはな館情報

概ね五名程度から二十五名まで乗車可能です。



お問合せ:なのはな館 ☎92-1481

鶴舞地区

県道の草刈りと ゴミ回収について

鶴舞活性化ネットワーク

鶴舞活性化ネットワークは地区内の道路で、四月から十一月まで、第二火曜日に草刈りとゴミ回収を実施しています。

区域は鶴舞から、大蔵屋団地、奥野、田尾の三カ所に分けて、三ヶ月に一度ずつ順番に作業をしています。

今回は十一月十六日に、大蔵屋と田尾の二区域を作業しました。その際回収したゴミについてお知らせいたします。

編集後記

本年はコロナウイルス感染症と、東京オリンピックの開催で国内が一喜一憂した一年でしたが、コロナ感染が減少しオリンピックも無事に終了して、後は穏やかな新年を迎えたいと願うこの頃です。

私達の社会生活が徐々に元へと戻りつつありますが、これから冬季と年末年始を迎えてコロナ感染防止の基本対策をしっかり守った上で、今迄抑制して来た地域の集まり、近場の旅行や帰省などで楽しみを見出して、健康な日常生活を送りたいと思います。

編集委員

- 河津 敏郎 (内田)
- 伊藤 陽子 (寺谷)
- 加藤 功 (牛久)
- 大井 守 (鶴舞)
- 金高 義幸 (平三)
- 牧野 雅夫 (戸田)

